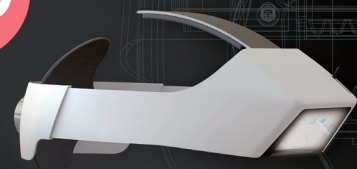


ウェアラブル手術用照明

OPELAⅢ™の有用性

Vol.9

美容外科領域



浪川 浩明 先生

医療法人社団 美人会 共立美容外科・歯科 新宿本院院長兼総括院長

1989年の開院以来、高い技術とホスピタリティが評価され、全国26院を展開する共立美容外科。総括院長である浪川医師は、手術範囲が多岐に及ぶ美容形成外科、なかでも骨を扱う手術では「無影灯以外の光源」が必要不可欠と語る。従来のヘッドライトを経て、ウェアラブル手術用照明OPELAⅢを導入した背景と実際の使用感をお話しいただいた。



これまでにない安定感で、長時間使用しても疲れしない

ひとくちに美容外科といっても、やることは多岐に渡ります。体表面の手術は天井の无影灯で問題なく実施できることも多いのですが、骨を扱う手術、骨切り術や輪郭形成術では小さな切開創から展開するため明るさが不十分になることが多く、ヘッドライトが必須です。これまで使っていたヘッドライトは長時間使用するとズレてきたり、しっかり締めると今度は頭が痛くなるため、途中で外してまた装着して…という具合で使用感にやや難がある状況でした。そのような中、このOPELAⅢのカタログを拝見する機会があり、試用してみることにしました。

実際に試用してみると、完全に頭を覆い包む形になっていて、長時間使用してもズレることがない。ある程度の重さではありますが、1点に重心がかかるわけではなく分散しているためか、安定感がある上にさほど重さを感じない。もちろん痛みもない。手術中ずっと装着していても疲れしない、付け心地がいいヘッドライトだな、という印象でした(図1)。他製品と比較して決して軽量というわけではないのですが、OPELAⅢ

を3時間以上の手術で使用した際に、軽量で手頃な価格の他製品を使用した際よりもむしろ疲労感が少なくなるという体感があります。奇妙な現象ですが、その高い安定感は長時間の手術の際により真価を発揮する、といったところでしょうか。初めてお試しいただく際にはまとまった時間装着していただいた方が良いかもしれません。



図1 | OPELAⅢを装着した浪川医師。見た目よりも疲労感は少ないとのこと。

自然光に近い色合いが、組織の陰影を際立たせる

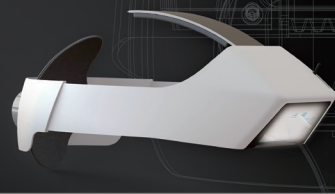
術野はただ明るく照射すればいいというものではなく、血液や様々な組織をはっきり見分けられないと手術になりません。OPELAⅢの照射は色合いが自然光に近いためか、術野という赤色が支配する世界でもコントラストや陰影がわかりやすく、従来見落としてしまっていたような細かい所も視認できました(図2)。

術野において組織が容易に識別できることは、遥かに安全な手術につながります。具体的に言うと、下顎角形成術(エラ削り等)で

使用する際、口内からエラの部分が見えにくいと感じられる先生も多いかと思いますが、通常であれば見えにくい裏側から覗く際にも下顎角の細部まではっきりと見ええました。骨の突起やカーブの感じもより立体的に見えるため、非常に見



図2 | コントラストや陰影がわかりやすく、組織の識別がしやすい。



通しがよいです。それから、下顎骨を削る際に下歯槽神経の走行が非常にネックになってきます。私は表側と裏側から挟み撃ちにするように削ることで神経を温存していますが、その時でも下歯槽管内の神経が非常に見やすい(図3)。ただ見えるだけでなく質感というか、神経周囲の様子もわかるため、位置の予測を立てやすく、神経損傷の危険性がかなり減少すると思います。今までは見えにくかったところも自信を持って仕事が出来ると、その違いはクオリティに反映されます。削り終えた後の削除面の滑らかさなど、「軟部組織の中に埋まるため必要以上にこだわる必要はない」と言う先生方もいますし、実際少々角が残ったからと言って大きな問題になることはありませんが、たとえ患者から直接見えない、完成度の違いに気づきにくいからと言ってそれを妥協することは避けたいと考えています。

そういうことを積み重ねてこそ仕事の次元が上げられる、ということこそをスペシャリストとして肝に銘じるべきで、自分自身が納得できるまでこだわって仕事をしたいという想いがあります。医師としての矜持ですね。

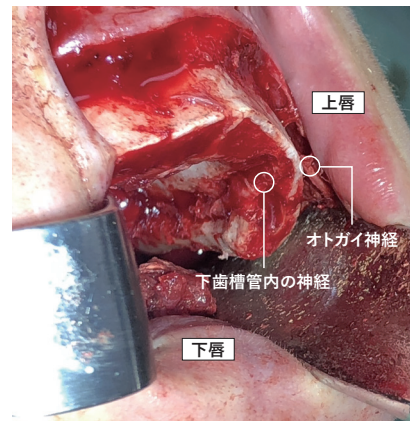


図3 | 下顎骨の表面から俯瞰した様子。下歯槽管内の神経がよく見えている。

一度使うと、手放せない。美容外科医におすすめのアイテム

もちろん従来のヘッドライトを使用しても手術はできます。しかし、より見えるアイテムを知ってしまうと、より安全でより質の高い手術ができる環境に慣れてしまうと、もう戻れないですね。例えて言うと、スマホのカメラとデジタル一眼レフほどの違いがあるというか。十分きれいに写るけれども、やはり色味や繊細さには確たる差があるため、商品撮影などでは後者を使いますよね。

OPELA IIIは赤味が抑えられ、自然光に近い色合いで見えるためか目にも優しい。手術全体を通して一段階上手くなったような感覚さえあります。装着のズレや痛みもなく、よく見えることで円滑にストレスなく手術が進行できます。OPELA IIIは高価な商品でしたが、ストレスフリーな手術ができること、それが安全で質の高い手術に繋がることからすぐに購入を決意しました。(今では骨切り術や輪郭形成術では全例、OPELA IIIを使用しています。)



図4 | OPELA IIIを手にする浪川医師。「手術に手放せない逸品」とのこと。

これまで30年骨を削ってきて、昔に比べだいぶ上達したとは思いますがまだまだ上手になりたい。見えないところにもこだわって、情性でなく向上心を持ち続けて手術をしたい。そこに力を貸してくれるアイテムは積極的に使用したいと考えています。そういう向上心を持った、高みを目指す美容外科医にぜひ試して欲しいと思います(図4)。



図5 | ハロゲン无影灯との組み合わせで最新の手術照明環境が実現

[製造販売元]

太陽商事株式会社

〒108-0014 東京都港区芝五丁目30番9号藤ビル
TEL 03(5440)6273 FAX 03(5440)2080

<https://www.opela3.com/>

ウェアラブル手術用照明

OPELA III™ Cx

无影灯の光をウェアラブルに
外科医の“Customer experience”から
OPELA III™は新しい形へ



製品サイト



OPELA III®は太陽商事株式会社の登録商標です。 OPELA III™は太陽商事株式会社の商標です。